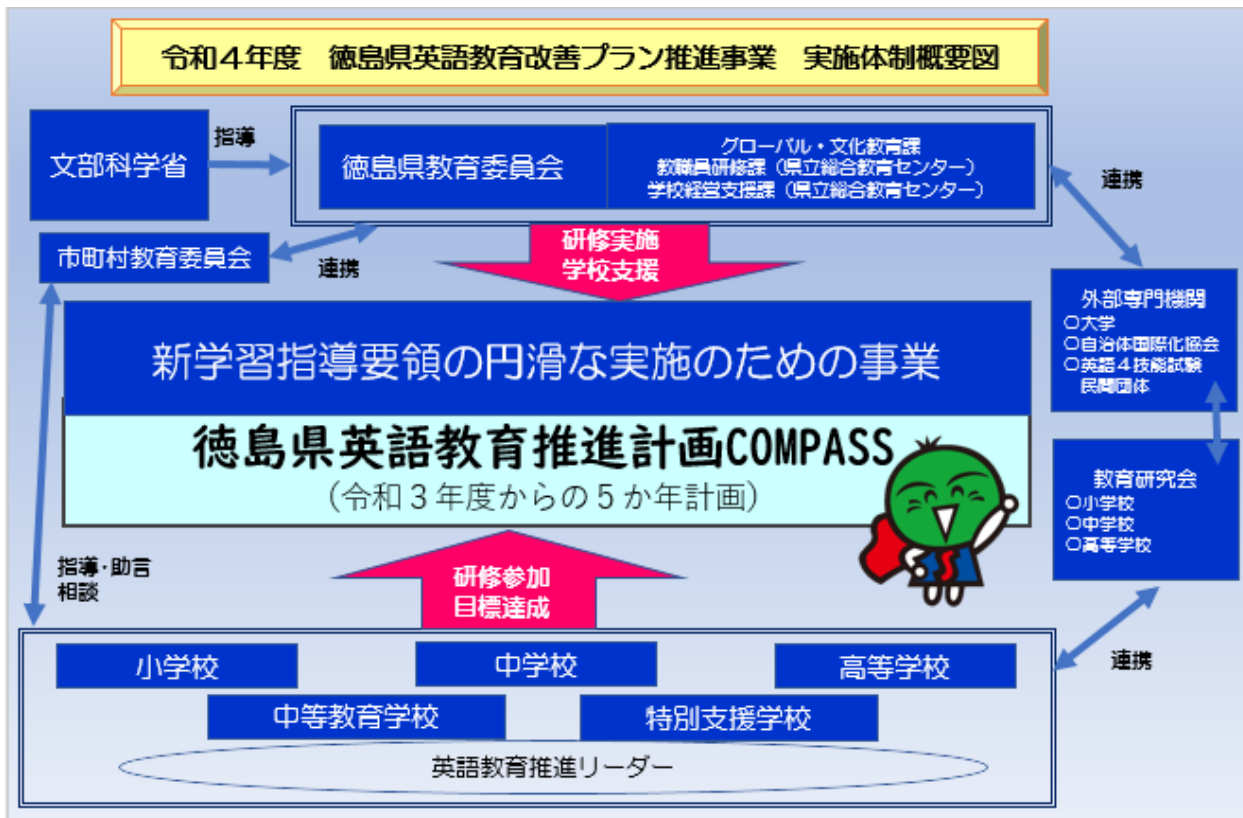


徳島県英語教育改善プラン

実施体制の概要

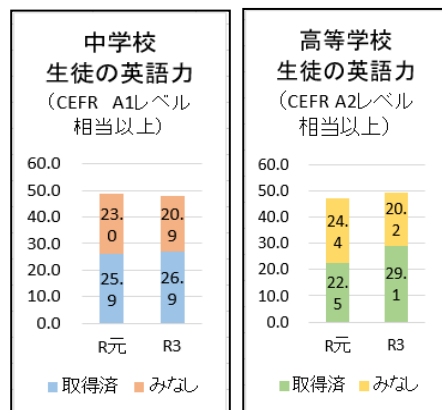


1 英語教育の状況を踏まえた目標

【英語教育の現状（令和3年度英語教育実施状況調査より）】

(1) 国が求める英語力（中3：CEFR A1以上，高3：CEFR A2以上）を有する生徒の割合

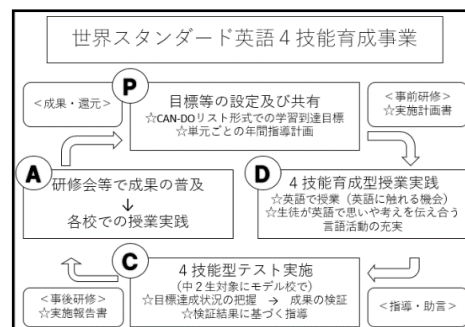
県内の中学及び高校生の英語力は、国の目標である50%に近づいているものの、今後更に授業改善を進め、一層向上させていく必要がある。4技能の中でもとりわけ、発信能力（特に「話すこと[やり取り・発表]」）の領域の強化が急がれるところであり、実際に英語で考えや気持ちを伝え合う「言語活動」を通して指導することを徹底し、児童生徒が英語を使いながら学ぶ機会の一層の充実とともに、各校の特色を活かした授業改善への取組を進めていく。



(2) 生徒の学習到達の適正把握について

生徒の英語力の達成割合には、それぞれの目標に相当する英語力を有していると教員が判断する「取得みなし」の割合が含まれる。しかし、中学校と高等学校の「取得みなし」の割合からは、本県英語教員が日頃の学習評価において、生徒の英語力の正確な把握に課題を抱えていることが見て取れる。そのため、効果的な授業改善や生徒の学習改善に結び付ける循環を作成し定着させる必要がある。

中学校では、令和元年度より、新学習指導要領への円滑な移行と生徒の英語力向上を目的とし、客観的な指標による4技能型テストを活用し、生徒の英語力を適切に把握するとともに、生徒の学習改善及び教員の指導改善のPDC Aサイクルの更なる促進を図る取組を行っている。

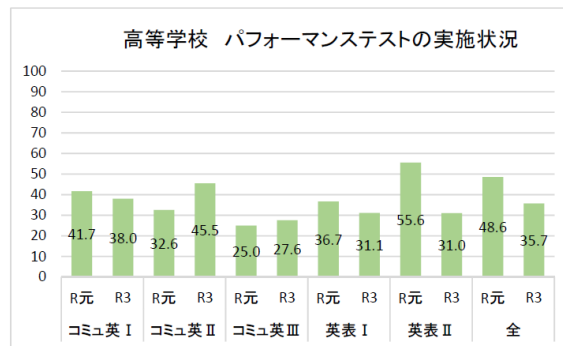
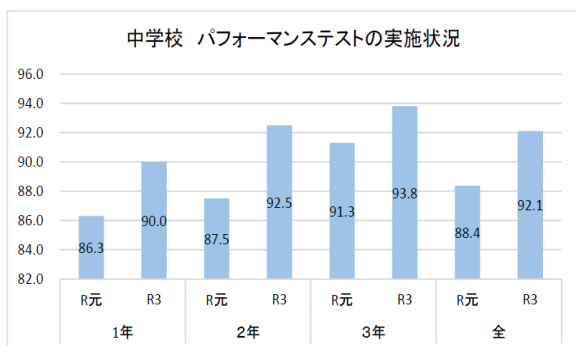


具体的には、県内13ブロックから1校～2校の実証校を募集し、中学校2年生を対象に、各校の実態に応じた「CAN-DOリスト」を具現化するための授業計画を作成し、その計画に沿った事業実践を、指導主事の訪問指導も受けながら行う。その後、客観的な指標による4技能型テストを実施し、事後研修会において、その結果を分析するとともに、4技能育成指導改善に関する協議を行い、指導計画及び授業実践の見直し改善を図るというものである。

モデル校方式により抽出ではあるものの、約1,500名(約5,000名中)の結果データ(中学校2年生の1月の段階でCEFR A1レベル以上の生徒)と「英語教育実施状況調査」の「取得みなし」の割合とは大きな差があることがわかる。

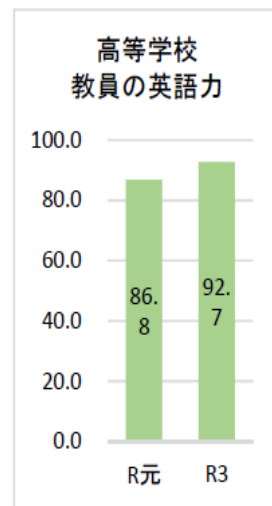
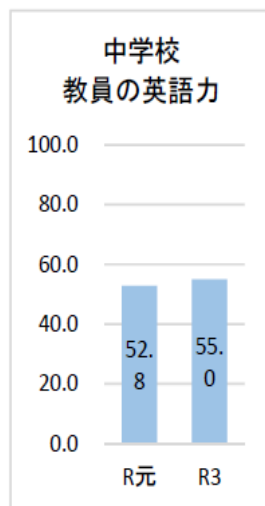
高等学校においても中学校と同様、「取得みなし」の割合は、令和元年度と比べて減少している。さらに、スピーキングテスト及びライティングテスト両方のパフォーマンステストを実施している割合は4割に届いておらず、4技能のコミュニケーション能力について、正確な把握が不十分な状況である。目標・指導・評価の一体化の実現に向けて、早急な手立てが必要である。

全英語教員が、生徒の目標達成状況を適正に把握する評価力を養うために、目標・指導・評価の関係について実践的な理解を深め、作成するペーパーテストやパフォーマンステスト等の妥当性や信頼性を向上させることが早急に必要である。



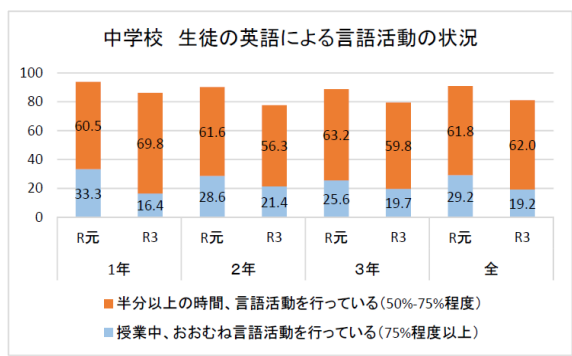
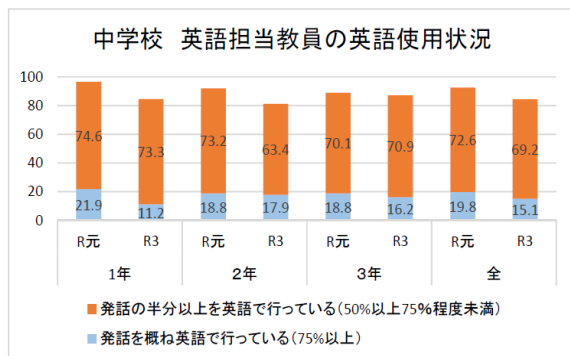
(3) 国が求める英語力(CEFR B2以上)を有する 英語担当教員の割合

英語担当教師の英語力については、各種事業により資格取得を促した結果、CEFR B2レベル以上を取得している割合は、中学校・高等学校ともに増加が続いている。現状を継続しながらも、外部試験の情報提供などを通して、英語教員の英語力向上を目指す。

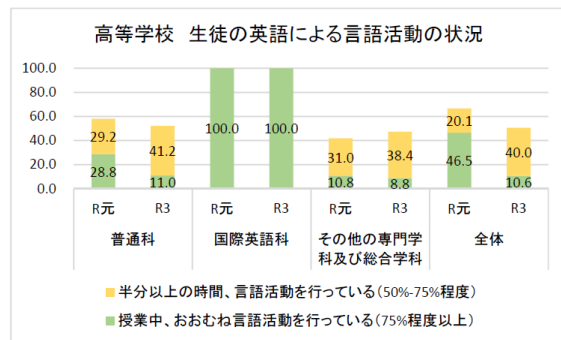
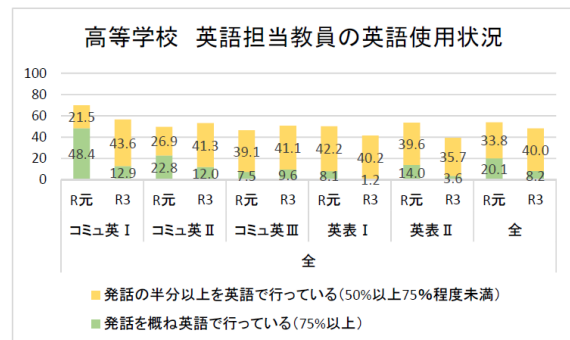


(4) 授業における教員の英語使用や生徒の英語による言語活動の割合

授業における英語担当教師の英語使用については、中学校では、発話の半分以上を「英語で行っている」割合と、生徒が授業時間の半分以上において「英語による言語活動を行っている」割合が、ともに80%を超えており、積極的に英語で授業が行われていると考えられる。しかし、令和元年度と比較すると、それぞれ90%から80%に減じており、コロナ禍における感染防止対策として、対面での言語活動を制限したことが一因であると考えられる。活動制限下にあっても言語活動を止めない授業作りを支援するため、研修や具体的な授業実践例の提示などで、さらに学校現場への支援が必要であると考えられる。



一方、高等学校では、英語担当教師の英語使用と生徒の英語による言語活動ともに5割程に留まっている。さらに、「CAN-DOリスト」の公表は5割程、達成状況の把握の割合は6割を下回っている。新学習指導要領のねらい及び各校の学習到達目標の達成に向けて、目標・指導・評価の一体化について事例等を活用して実践的な理解を深め、各校の生徒達の多様な実態を生かした、言語活動を通じた指導の計画・実施が急がれるところであり、1人1台タブレット端末の活用など、資源を最大限に活用した取組が必要である。各校の英語教員全員が、さらには県内高校の英語教員全員がチームとしての意識を持ち、指導・評価等について情報や意見を共有し、県全体の英語教育を推進していく必要がある。

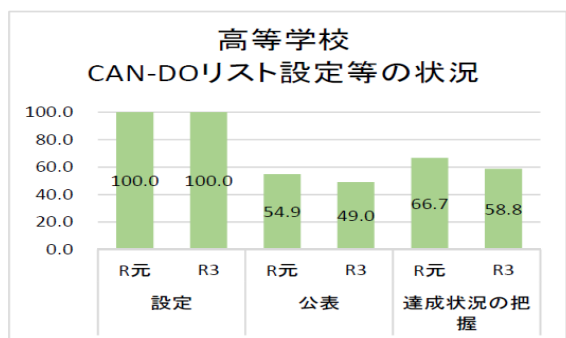
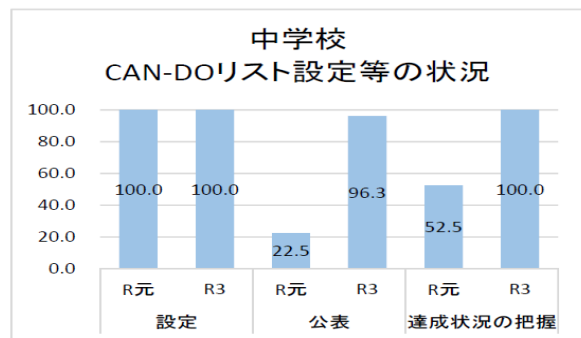


(5) 「CAN-DOリスト」形式での学習到達目標の設定等について

「CAN-DOリスト」形式での学習到達目標を設定している中学校の割合は、平成28年度より100%を達成している。また本県では令和元年度より、「小中連携版CAN-DOリスト」の作成を進めており、県内全ての小学校でも「CAN-DOリスト」が作成された。

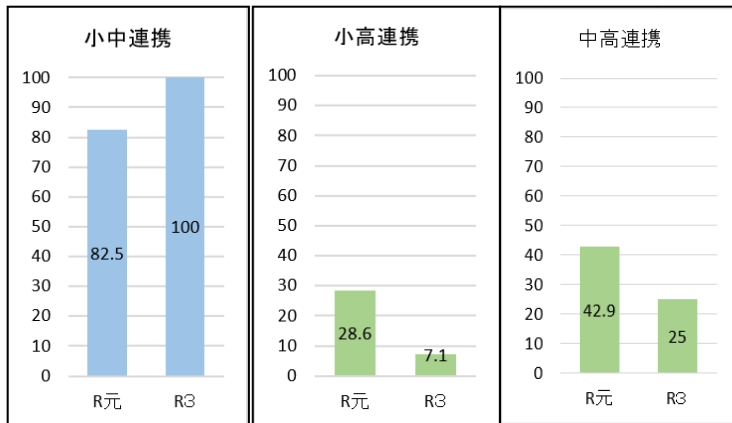
さらに、「CAN-DOリスト」の公表と達成状況の把握の状況も大きく改善されている。特に、「小中連携版CAN-DOリスト」の作成を進めるなかで、重点的に指導する単元とCAN-DOリストとの関連を明確にしたことで、目標と把握との関連が整理されたことが大変有効であった。今後、把握の妥当性等について、更なる整備が必要であると考えられる。

高等学校では、「CAN-DOリスト」の設定は100%を達成しているものの、公表は5割程、達成状況の把握は6割を下回る学校に留まっている。各校の教員と生徒が、学習到達目標及び目標の達成状況を共有し、生徒の自律的学習者としての成長を促すとともに、授業改善及び児童生徒の学習改善につなげる好循環を定着させるための支援が急がれる。



(6) 校種間連携について

英語教育早期化を受け、小学校から高等学校まで一貫した外国語教育を進める上で、校種間の連携が求められている。徳島県では、令和元年度より「小中連携版CAN-DOリスト」の作成を進めており、全面実施となった令和3年度より、「小中連携版CAN-DOリスト」を共同作成の上、提出する体制を整備したことで、100%を達成することができた。しかしながら、小・中学校と連携していると回答した高等学校の割合は5割に届いていない。小学校から高等学校まで学びを継続するため、校種間で連携しながら「CAN-DOリスト」の整備を進めるとともに授業参観や指導に関する情報交換などを積極的に行っていく必要がある。



(7) 英語学習におけるモチベーションの向上について

「平成31年度全国学力・学習状況調査(中学校 英語)」によると、「英語の勉強は大切だと思っている」と回答している中学生は86%と高い割合を占めているのに対し、「英語の勉強が好き」と回答している割合は59%にとどまっている。学習に対する前向きな気持ちをもってることと学力には相関性があると考えられることから、児童生徒が「英語の勉強が好き」と感じられるよう、学んだ英語を使って「分かった」、「伝わった」という達成感を味わうことができる機会を提供し、英語の学習に対するモチベーションを高めていく。

質問内容	本県	全国平均
英語の勉強は大切だと思いますか？	86%	85%
英語の勉強は好きですか？	59%	56%

(平成31年度全国学力・学習状況調査)

生徒が実際のコミュニケーションの場面の中で英語を学ぶことができるよう、県教育委員会では、「Tokushima 世界への扉プロジェクト」等により、小学校から高等学校までの児童生徒に、学習段階に応じ、英語を用いて外国人と交流する体験活動の機会を提供してきた。このような体験活動に参加した児童生徒が、後に長期留学の奨学生に選ばれたり、英語弁論大会等で入賞したりするなど様々な活躍が成果として現れており、今後はオンライン・オフラインのハイブリッド型のニューノーマルな形で、ツールとして英語を使える機会を提供していく。

2022年度までの目標管理を次に示す。(小学校専科は2024年度まで)

【小学校】

	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
学習到達目標の設定(%)					80		100	100	100	
〃 の公表(%)					80		80	81	90	
〃 達成状況の把握(%)					80		80	95	90	

【小学校専科】

	2020		2021		2022		2023		2024	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合(%)	10	6.6	10	12.4	20	16.8	30		40	

【中学校】

	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
求められる英語力を有する 英語担当教員(%)	60	50	65	53	70		55	55	60	
求められる英語力を有する 生徒(%)	50	52	55	49	60		53	47	56	
学習到達目標の設定(%)	100	100	100	100	100		100	100	100	
〃 の公表(%)	100	21	100	23	100		40	96	55	
〃 達成状況の把握(%)	100	45	100	53	100		60	100	70	
生徒の英語の言語活動時間(%)	100	79	100	91	100		92	81	94	
パフォーマンステストの実施状況(S)(回)	5	4	5	4	5		5	4	5	
パフォーマンステストの実施状況(W)(回)	5	2	5	2	5		3	3	3	
教員の英語使用状況(%)	100	99	100	92	100		94	84	96	

【高等学校】

	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
求められる英語力を有する 英語担当教員(%)	85	86	90	87	95		90	93	92	
求められる英語力を有する 生徒(%)	50	45	55	47	60		53	49	56	
学習到達目標の設定(%)	100	100	100	100	100		100	100	100	
〃 公表(%)	100	49	100	55	100		63	49	72	
〃 達成状況の把握(%)	100	63	100	67	100		80	59	85	
生徒の言語活動時間(%)	100	55	100	53	100		65	59	74	
教員の英語使用状況(%)	100	54	100	54	100		71	48	78	

2 目標を達成するための取組

○ 徳島県英語教育推進計画 COMPASS (R3~R7) の概要

徳島県英語教育推進計画COMPASS (案)

1 基本的事項

(1) 趣旨
グローバル化が進展する社会を生き抜く『人財』を育成するため、「徳島県英語教育改善プラン」(平成28年度~令和2年度)の成果と課題を踏まえ、学校を取り巻く環境の変化に対応して、本県における英語教育の取組をより一層推進するための計画とする。

(2) 計画期間
令和3年度から令和7年度まで(5年間)

2 現状

「英語教育実施状況調査」結果より

生徒の英語力	言語活動の割合
【求められる英語力を有する生徒の割合】 中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上 徳島県中3生 ※全国44% 39%(H28)→49%(R1)	【授業(50分)の半分以上の時間で言語活動を行っている割合】 中学校 62%(H28)→91%(R1) 高等学校 54%(H28)→59%(R1)
高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上 徳島県高3生 ※全国44% 36%(H28)→47%(R1)	【パフォーマンステストの実施】 【スピーキングテストとライティングテストの両方を実施している割合】 中学校 89%(R1) ※全国86% 高等学校 38%(R1) ※全国36%

新しい学習指導要領への移行
 外国語教育の早期化 ICT機器やデジタル教材等の整備

3 今後の方向性

- 児童生徒が英語を用いて互いの考えや気持ち伝え合う「言語活動」を通して学び、英語による発信能力(特に「話すこと」)を高めることができるようにする。
- 小学校から高等学校までを見通した学習到達目標を設定するとともに達成状況を適正に把握し、指導改善につなげる。
- 「生きた英語」に触れながら、実際に英語を活用する機会を提供し、児童生徒の英語学習への意欲向上を図る。
- 1人1台タブレット等のICT機器を効果的に活用し、指導の充実を図る。

4 今後5年間で重点的に取り組む施策

- ① 授業改善による児童生徒の発信能力の強化(特に「話すこと」)
 考えや気持ちを **たえあう授業**
 言語活動を通した指導の充実
- ② 校種間連携の促進と指導のPDCAサイクルの徹底
 小・中・高で **ながる指導と評価**
 言語活動を通した指導の充実
 パフォーマンステストによる達成度の把握
- ③ コミュニケーションツールとして実践的に英語を使う機会の提供
 コミュニケーションのための **ツールとしての英語**
 学習段階に応じた英語体験活動の提供
 国際交流、海外留学及び留学生の受け入れ等の促進

1人1台タブレット等を最大限に活用

具体的な達成目標(令和7年度)	言語活動の割合
生徒の英語力 【求められる英語力を有する生徒の割合】 中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上 徳島県中3生 ・・・65%	【授業(50分)の半分以上の時間で言語活動を行っている割合】 中・高等学校ともに100%
高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上 徳島県高3生 ・・・65%	【パフォーマンステストの実施】 【スピーキングテストとライティングテストの両方を実施している割合】 中・高等学校ともに100%

3 の施策ですすめる英語教育

【令和3年度~令和7年度までの方向性】

1 言語活動を通した指導の充実

徳島県の児童生徒にとって、4技能の中でも特に、「話すこと[やり取り・発表]」の領域の英語力を育成することが求められている。すべての校種で、英語担当教師が積極的に英語を用いて、実際に英語で考えや気持ちを伝え合う「言語活動」を通して指導することを徹底し、児童生徒が英語を使いながら学べるようにすることが必要である。相手と事実や意見、気持ちなどを即興で伝え合うことや、互いに分からない点を尋ねたり確かめたりして対話を継続・発展させることができるように指導していくことが大切である。ICT機器を効果的に活用することで、児童生徒が英語でやり取りをしたり、発表したりする機会の充実を図る。

2 校種間連携の促進と指導のPDCAサイクルの徹底

児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を高めるためには、それぞれの学習段階で「何ができるようになるか」を明確にした目標を設定し、指導を行う必要がある。そのためには小学校3・4年生の「外国語活動」、小学校5・6年生の教科「外国語」の実施を受けて、校種間で連携し、小学校から高等学校までを見通した「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定し、活用することが必要になる。また、目標の達成状況をパフォーマンステスト等の多様な評価により適正に把握し、授業改善に繋げる「指導と評価の一体化」を図ることが重要である。

3 英語学習に対するモチベーションの更なる向上

児童生徒が「生きた英語」に触れながら実際に英語を活用する機会の提供は、英語学習へのモチベーションを高め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に繋がることから、外国人と英語で交流する実践的な機会を引き続き拡充していく必要がある。高速大容量のインターネット環境や1人1台タブレットの整備により、オンラインを活用して時・場所の制限を超え

た交流機会の提供が可能になる。

4 ICT機器の積極的な活用

「徳島県GIGAスクール構想」を受けて整備される、電子黒板や1人1台タブレットなどのICT機器や、デジタル教科書・教材等を有効活用し、生徒の興味・関心をより高めるとともに、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る必要がある。

【課題に対する対策】

1 言語活動の充実

①【小学校】小学校専科教員連絡会（県費）

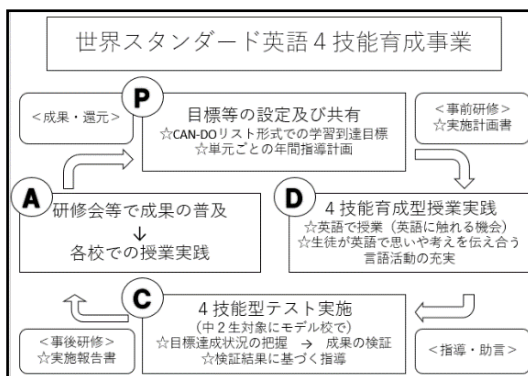
- 対象 小学校専科教員
- 内容

小学校専科教員を集め、教科書の使い方や評価などについての情報交換・事例発表や、大学教員を招いて講演・ワークショップ等を行い、地域の中心となる専科教員の指導力向上を目指す。参加者間や、参加者と県教育委員会指導主事とのコミュニケーションを促進し、専科教員の悩みや不安を軽減すると共に、英語教育への取組に関する地域間格差を埋める。

②【中学校】世界スタンダード英語4技能育成事業（県費）

- 対象 中学校・中等教育学校（前期課程）
- 内容

令和4年度より2年計画で、県内全中学校を対象に、英語能力判定テスト（4技能型）を活用した授業改善事業に取り組む。具体的には、中学校2年生を対象に、各校の実態に応じた「CAN-DOリスト」を具現化するための授業計画を作成する。そして、その計画に沿った授業実践を、指導主事の訪問指導も受けながら行う。その後、客観的な指標による4技能型テストを実施し、生徒の英語力を適切に把握するとともに、その結果を分析し、事後研修会において4技能育成指導に関する協議を行い、次年度以降の指導計画及び授業実践の見直し・改善を図る。



③【高等学校】ディベート活動を通じた授業改善ビデオの作成（国費申請）

- 対象 高等学校・中等教育学校（後期課程）教員
- 内容

言語活動を通じた指導の充実を図り、発信能力（特に「話すこと」）を育成する授業改善を一層推進するため、指導及び評価の好事例を、大学教員等の指導を受けながら動画にまとめ、教員研修等で活用することで、広く県内高校での授業改善の推進を図る。特に、本県高校英語教育で推進しているディベート活動を取り上げることで、統合的な言語能力の育成を図りながら、発信能力育成に焦点を当てる。複数の協力校が、それぞれの学習到達目標に基づき、ディベートの入門的な活動又は発展的な活動を通じた指導及び評価の実践について共有することで、県下各校が生徒の実態に応じて活用できるようにする。

④【高等学校】新学習指導要領のねらいを実現する授業改善研究会（国費申請）

- 対象 高等学校・中等教育学校（後期課程）教員
- 内容

本県高校生の約50%が、国が高校生に求める英語力（CEFR A2 レベル相当以上）を有していない状況を鑑み、生徒の多様な英語力や学習意欲の実態を踏まえつつ、全ての生徒が意

欲的に取り組み、英語によるコミュニケーション能力を伸ばすことができる英語授業の実現を目指す。県内の全高校の英語教員を対象とした授業研究会を実施し、大学教員等から、新学習指導要領のねらいを実現し確かな学力を育成する授業改善について指導を受けるとともに、他県の先進的な取組をしている高校の授業研究、さらには県内教員同士の意見交換の機会とし、県内全体の授業改善を図る。研究会にはオンラインを活用し、集合研修の形を取らないことで、教員の時間的負担を減らすとともに、定期的を開催することで、継続的・段階的に授業改善に取り組める環境作りをする。成果として、各校の「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」又は「書くこと」を主な到達目標とする単元の指導・評価計画及びパフォーマンステスト等のデータを共有することで、「目標・指導・評価」の一体化について実践的な理解を深める。

2 小中高連携の強化

①「COMPASS」の周知徹底の継続（国費申請）

○対象 市町村教育委員会、小学校教員、中学校・中等教育学校・高等学校及び特別支援学校英語科担当教員

○内容

「COMPASS」を、全小学校の新任教員、全中学校・中等教育学校・高等学校及び特別支援学校英語科新任教員へ配付し、「COMPASS」が掲げている「3つの施策ですすめる英語教育」を今年度も継続して周知徹底を図る。具体的には、全校種の学校訪問を行い、教科会等を実施して「COMPASS」の説明をし、小中高一貫した英語教育の取組と目標の共通理解を図る。同時に、目標達成に向けてそれぞれの学校が抱えている課題を把握し、解決のための支援策を講じる。

②英語指導力向上事業（国費申請）

○対象 小学校教員、中学校・中等教育学校・高等学校及び特別支援学校英語科担当教員

○内容

「指導と評価の一体化」を具現化した英語指導力向上のために、推進研究校を各校種で1校指定、これまで養成した小中高英語教育推進リーダーに続く、徳島イングリッシュメンターを各校種で3名ずつ選出する。各校種1名の有識者を講師として招聘し、オンラインを交えた指導助言を受けながら、「指導と評価の一体化」についての理解を深め、それを踏まえた年間指導計画・単元構想・授業設計・学習評価の一連の流れについて実践研究を進める。その成果を、推進研究校において、集合型とオンデマンド型のハイブリット形式で、授業公開及び徳島イングリッシュメンターによる実践報告を含めた公開研究会を実施することを通して、県下の教員へ「指導と評価の一体化」について周知し、理解の促進を図る。また、各実践研究について動画等を含めてとりまとめ、総合教育センター内Webサイトに掲載し、幅広く普及を図る。

○講師依頼予定

[小学校] 信州大学 教授 酒井 英樹

[中学校] 文教大学教授 阿野 幸一

[高等学校] 甲南大学国際言語文化センター 教授 野村 和宏

○推進研究校設置の目的

- ・「指導と評価の一体化」の具現化に向けた、学校での実践研究及び授業改善の推進
- ・県が実施する研修を始めとする、英語教育関係の諸施策の効果の検証
- ・研究会や研究授業の他校種への公開による小中高連携の促進

○徳島イングリッシュメンターの選出

- ・指導と評価の一体化の具現化に向けた実践研究及び授業改善の促進
- ・各地域の核として、実践研究及び地域の英語指導力向上を促進
- ・県が実施する研修を始めとする英語教育関係の諸施策の効果の検証

・研究会や研究授業の他校種への公開による小中高連携の促進

○県教育委員会による支援

・指導主事による指導助言

※成果，検証方法，研究，授業改善，講師選定及び公開研究会の企画・運営，公開研究授業指導案作成など全般

・県の英語教育関係の諸施策の効果を検証するためのアンケートの提供

・公開研究会，公開研究授業の他地域・他校種への広報及び課題・成果の共有・普及

③パフォーマンス評価ワークショップ（国費申請）

○対象 小学校教員，中学校・中等教育学校・高等学校及び特別支援学校英語科担当教員

○内容

有識者の講義から，「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を基にしたパフォーマンス評価についての理解を深め，教科書単元と照らし合わせながらパフォーマンステストを設定する演習を行う。演習時には，有識者に加えて，徳島イングリッシュメンターや英語教育推進リーダーも指導助言を行う。また，タブレット端末を活用した個別学習や協働学習を，演習の中で体験する。

○講師依頼予定

岐阜大学 准教授 瀧沢 広人

④つながる外国語教育！小中高連携英語EX（イングリッシュ・トランスフォーメーション）研修（県費）

○対象 小学校教員，中学校・中等教育学校・高等学校及び特別支援学校英語科担当教員

○内容

校種別に学習指導要領の目標等について有識者から指導を受けた後，学習指導要領の目標の実現に向け，校種間の接続を意識した単元・授業づくりを，小中高の教員が協働で行うことを通して，小中高の校種間連携を図る。2年間で全学校を対象に実施する。

○講師依頼予定

[小学校] 文教大学 教授 金森 強

[中学校] 東京家政大学 教授 太田 洋

[高等学校] 東京外国語大学大学院教授 根岸 雅史

⑤小中高連携のための「指導と評価の一体化」サイトの作成（国費申請）

○対象 小学校教員，中学校・中等教育学校・高等学校及び特別支援学校英語科担当教員

○内容

上記事業1④，2②③及びその他研修等の成果物としてのパフォーマンステストを，「校種間連携版CAN-DOリスト」で整理し，Web上の新サイトとして立ち上げ，広く公開することで，全校種における「指導と評価の一体化」を強化する。また，PDF版だけでなく，教員がテスト作成に活用できるWORD版も掲載することで，時間的な負担を減らす。

徳島県英語教育推進計画COMPASS	
中・高連携版	
学年	単元
小学校	英語
中学校	英語
高等学校	英語

【中学校】の学習到達目標「聞くこと」

はっきりと話されれば，日常的な話題について，必要な情報を聞き

①

あなたの学校では，今週の土曜日に英語のイベントに出かけます。当日に向けて担任の先生に確認しようと思っていることを書き留めていた【メモ】を見ながら，あなたは担任の先生の指示を聞いています。聞いた後，あなたが担任の先生に確認する必要がある内容はアからエのどれですか。最も適切なものを一つ選びなさい。

※(必要な情報を聞き取ることを評価する問題)

ア 集合時間 イ 集合場所 ウ 終了時刻 (正解) エ 持ち物

【メモ】

- 集合時間
- 集合場所
- 終了時刻
- 持ち物

(スクリプト)

Please listen carefully. I will tell you about the English Camp at Sakura Hall this Saturday. It will start at 10 am, so please arrive there by 9:45. Remember to bring your handbook, a pencil, and an eraser. You will need your gym shoes, too. You don't have to bring lunch. You will be making curry and rice with your friends and the ALTs. Don't bring any snacks! Any questions?

②

話される英語を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を，それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

1 5月16日

2 1月22日

3 5月15日

4 1月22日

(スクリプト) (正解: 1)

My school was built in 1997, so it is 22 years old. We celebrated its birthday at school on May 15th.

⑥小学校教員の新規採用における一定の英語力を有する教員の採用の促進について

【現状と課題】

- 小学校教諭新規採用者（2022年度採用予定）に占める英語力保有者の割合：17.9%
- 志願者全体における有資格者数：38名（中高英免許：37，英検準一級相当以上：1）
- ※ 加点制度による有資格者確保の取組を実施しており，年々有資格者の採用の割合が増加傾向にある。

【年次目標】

○小学校新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

年度	2020		2021		2022		2023		2024		2025	
	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
%	6.6	10	12.4	20	17.9	30		40		50		
人	7	11	12	14	17	22		24		26		

【具体的な手立て】

- ① 教員養成系大学及び県内私立大学との連携（県内大学連携協議会や大学訪問）
- ② 採用審査における有資格者への加点・実技審査免除・中学校教諭「英語」との併願を可能に【要件の追加】

3 学習段階に応じた実践的に英語を使う機会の提供

「Tokushima 世界への扉プロジェクト」（県費）

- ① 親子で学ぶわくわくイングリッシュデイ（対象：小学校3・4年生とその保護者）
 小学校3・4年生の児童と保護者が一緒に英語に触れる機会を創出することによって，児童が英語によるコミュニケーションの楽しさを実感する機会を提供する。このことによって，意欲的に英語を学ぼうとする態度を養うとともに，保護者が外国語教育に対する理解を深める機会とし，将来にわたって英語を学び続ける人材の育成を図る。
- ② ALTとともに徳島を学ぶわくわくデイキャンプ（小学校5・6年生対象）
 例年，県内在住の外国語指導助手（ALT）を活用して，小学校5・6年生90名を対象に県内3コースのデイキャンプを実施し，児童の教科・外国語への対応力を高める。
 令和4年度は，実際に各地を巡るデイキャンプを2コース，オンラインで巡るコースを1コース設定し，様々な子供のニーズに応えられるようにする。県内の各施設，南部及び西部の総合県民局などと連携を図りながら，学びの中身を充実させることによって，日本人としてのアイデンティティと地元徳島を愛する心の育成を図る。
- ③ 「世界に飛び出せ！イングリッシュキャンプ」事業（中学生対象）
 県内在住の留学生や外国語指導助手（ALT）を活用して，中学生30名を対象に，年3回，世界を身近に感じられる宿泊体験活動として，英語をベースとしたセミナーや交流活動を平成27年度より実施している。令和3年度は，新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底するため，従来の参集型イベントを止め，オンラインによる生きた英語に触れる機会の提供を行った。県内在住の留学生やALTおよび，オンラインにより実現できる海外に住んでいる中学生とつなぎ，英語を使ったコミュニケーションの機会の提供を行った。令和4年度は，オンラインとオフラインを併用した英語使用の機会の提供を計画している。
- ④ 徳島グローバルキャンプ（高校生対象）
 海外の現地学生との異文化コミュニケーション・SDGs についての探究活動における英語力の向上を柱としたオンラインによる通学型キャンプ。キャリア教育のための座談会や，県内在住外国人との文化体験も含む。新学習指導要領を踏まえ，英語の発信力を強化し，表現力や協働力を身につけることを目的とする。

